



行事を通して成長

校長 小川 泰文

「あさがおの 水がキラキラ ほうせきだ」

5年生の廊下に掲示された子どもたちの俳句の一句です。あさがおのみずみずしい美しさを、豊かな感性で表現しています。季節はさわやかな薫風から、少しずつ蒸し暑い夏の風へと変わりつつあります。

先月、1学期で最も熱を入れて練習してきた運動会が無事に終了しました。当日の熱戦はもちろんのこと、何より子どもたちが行事を通して大きく成長する姿を肌で実感できたことが大きな収穫でした。6年生のある子は、次のように振り返っています。

「結果では負けてしまったけれど、みんなでひとつになれたと思うし、小学校最後の運動会が全力で戦えて、全力で楽しめて、最高だったなと思いました。応援団長の二人は最後までみんなに前向きになれる言葉をかけていて、自分も応援団長のように、いろんな人に言葉を掛けられるように、これからがんばろうと思いました。」

大きな行事を終えると、やりきった子どもたちが一時的に「燃え尽きてしまう」ことがあります。これは、行事の成功そのものがゴールになってしまっている場合に起こりがちです。

しかし、運動会を終えた子どもたちの様子を見ると、燃え尽きるどころか、むしろ一段と頼もしく成長した印象を受けます。子どもたちにとって運動会はゴールではなく、人として成長するため、そして学級がより固い絆で結ばれるための「通過点」だったのだと、あらためて気付かされます。

また、1年生のある子は、新潟日報の「おおきくなったら」に次のような作文を寄せました。

「ぼくは、大きくなったら、うんどうかいのおうえんだんになりたいです。どうしてかというと、うんどうかいのけつだんしきで見た、おうえんだんのどうどうとしたすがたや、おおきな声がかっこよかったからです。」

このように、上級生が下級生の「憧れの存在」になることは、学校教育において非常に大切な意味をもちます。子どもたちは、上級生の背中を見て多くのことを学びます。だからこそ、高学年の立派な姿が下級生の憧れとなり、次の世代へと受け継がれていく好循環が、子どもたち全体の成長を力強く支えています。

運動会という大きな節目を経て、子どもたちのさらなる飛躍への期待が大きく膨らむ取組となりました。

1学期も残すところあと1か月です。これからは暑さへの対策や、健康・集中力の維持が大切な時期となります。連携しながら、引き続き子どもたちの歩みを温かく支えてまいりましょう。

一人一人が輝いた運動会

5月23日（土）に運動会を行いました。PTAや地域の皆様のご協力・ご声援のおかげで、子どもたちが全力で応援や競技に取り組み、力を発揮することができました。

応援団を中心に優勝目指してがんばる姿、運営を支えた係の児童の活躍、全力で走る姿、どの場面をとっても一人一人の輝きがありました。ご協力ありがとうございました



自分の体力を知る

5月29日（金）に体力テストを行いました。この日は5種目、残りの3種目は学級ごとに計測しました。上級生から下級生まで混じったスマイル班で協力し合いながら真剣に取り組みました。

結果は体力向上に向けた取組に活用していきます。



佐渡を満喫

6月10日（水）～11日（木）に6年生の修学旅行を行いました。佐渡市を訪れ、たらい船や砂金採り、和太鼓などの体験に加え、金山、トキ保護センターなどを見学しました。佐渡の伝統や文化、歴史とともに、旅先でのマナーなどを学ぶ貴重な経験となりました。

みんなの笑顔のために

6月16日（火）にいじめ見逃しゼロスクール集会を行いました。事前に各クラスで取り組むことを話し合い、代表の子が全校の前で発表しました。2年生は「なかよくあそぼう」を目標に、誘い合って遊ぶことなどをがんばりたいと発表しました。



地震が起きた時のために

6月15日（月）に第2回避難訓練を行いました。今回は休み時間に地震が起きたことを想定して行いました。

後半は、燕市の危機管理監の方から、災害時に身を守る方法を具体的に指導していただきました。